

しまねの学力育成推進プランに基づく取組について

1 市町村教育委員会との連携

10月に県内6カ所で学力育成会議を開催。全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組について協議し、プランに基づく取組を進めることを確認。

- (1) 授業の質の向上 管理職説明会や全小学校への訪問指導の実施
- (2) 家庭学習の充実 家庭などへの啓発活動の実施
- (3) 学校マネジメントの強化 全国及び県の学力調査を活用した授業改善サイクルの確立

2 算数・数学教育等の専門家や有識者等から意見を聴取

- (1) しまねの算数授業改善プロジェクトチーム会議（9月30日、2月15日）

主な意見・算数の勉強が好きな子どもを増やす目標に向けて「考えることを楽しむ」「子どもの活動を適切に評価すること」を重点にする。

- ・めざす授業のモデルを県内の学校に示すことができるように推進校やリーダー教員を指定し、積極的に活用する。

- (2) 有識者等から意見を聴く会（10月7日、12月15日）

主な意見・島根で生きることの価値を考え、島根で生きる気概をもつような子どもを育ててほしい。

- ・教員が、地域を知り、夢をもって子どもたちの指導にあたるのが大切。
- ・学校全体での学力育成の実践例を全県の管理職に紹介するとよい。

3 島根県学力調査の実施

<実施の概要>

- (1) 実施日 平成27年12月15日（火）、16日（水）
- (2) 実施校数 公立小学校 213校（県立特別支援学校小学部を含む）
公立中学校 102校（県立特別支援学校中学部を含む）
- (3) 実施教科等 小学校 3・4年（国語、算数、意識調査）
" 5・6年（国語、社会、算数、理科、意識調査）
中学校 1・2年（国語、社会、数学、理科、英語、意識調査）

<結果の概要>

算数の勉強が好きな子どもの割合が、やや上昇した。（小6）

全国調査で課題が見られた「小数のひき算」の正答率が大幅に上昇した。（小6）

小・中学校とも、記述式問題の正答率が低い。

中学校の家庭学習の時間が増えず、携帯などの使用時間が増加した。

4 今後の取組

- (1) 算数授業改善推進校8校に授業リーダー教員各1名配置し、しまねの算数授業改善プロジェクトチームの助言を受けながら、授業改善に向けた実践研究を継続して行う。授業や研究協議などを積極的に公開して全県への普及を図る。
- (2) 指導の改善ポイントについて、平成28年度「各教科等の指導の重点」などにまとめ、すべての小中学校に配布し、研修や学校訪問指導等で徹底を図る。
- (3) 全国調査（4月実施）と県学力調査（12月実施）を生かした各学校における授業改善のためのPDCAサイクルの確立を図る。
- (4) 家庭と連携して、主体的な家庭学習の取組につながる指導の充実を図る。